

突出した釣果で注目を集めつつある富山湾のアカムツ。そこには意外な要因が関わっているかもしれない



▲神通川河口・岩瀬漁港と岩瀬運河

◎隔月連載

富所潤の

FISHIN'GRAPH

フィッシンググラフ～見て感じて楽しむ沖釣りライフ

②④ 富山湾のライトアカムツ

◎とみどころ じゅん シマノインストラクター。ティップエギング、メタルスッテゲーム、ライトヤリイカのほかたチウオなど、船のライトゲーム、「楽しむ釣り」の最先端に行く。

イトゲームロッドでの釣りと成る。
仕掛けはホタバリ16号、幹糸8号、ハリス5号、枝間130センチの胴つき2本バリ。アピールアイテムなど仕様は関東と同じである。
釣り方も同様。砂泥底に刺さったオモリを引き抜いて竿いっぱい誘い上げ、ていねいに下ろす。底スレスレでアタリを待つか、オモリを着底させてゼロテンションで待つか、である。

港を出てわずか10分、それもゆっくりと走った所で、アカムツが釣れる。これには富所潤さんも驚いた。
深海から一気にせり上がる富山湾の湾奥、神通川の河口沖は、陸を目の前にして水深100メートルを超える。
岩瀬漁港・大將軍丸の本田雅人船長はこまめに、それこそピンポイントで水深120メートル前後を探っていく。
PE1号ならオモリ80号。アカムツ釣りで最も軽い仕掛けは、いわゆるラ



▲オモリは80または100号。仕掛けは2本バリの胴つきが一般的

富山市街を目の前にアカムツを釣る。まずはライトゲームエクステンションTYPE73MH195でスタート。タチウオやアマダイ釣りのように実に繊細で面白い



▲底の取り直しを頻繁に行うアカムツ釣りにおいて、ワンタッチでクラッチのオン・オフを行えるスピードクラッチは大いに役立つ



▲口切れ防止のため中間速設定は17で使用。合わせから巻き上げまで最速だった



【フォースマスター 200】

◎頻繁に誘い、疑問に思ったら即座にエサの確認と再投入をするのが釣果への近道となるアカムツ釣りでは、モーターによる快適な巻き上げと、一日持ち続けることができる軽量コンパクト電動リールが必需品。とくに道糸にPE 1~1.5号を使うライトアカムツでは、手巻きリール感覚で誘い、充実の機能をもち、快適にモーターで巻き上げることが出来るフォースマスター 200が最適なパートナーになる。※右ハンドルの200、左ハンドルの201、201DHのラインナップ。

◎SPEC ギア比=82 最大ドラッグ力=5.0kg 自重=395g 糸巻量PE(タナトル)=0.8号-270m、1号-220m、1.5号-150m 最大巻上長=66cm/ハンドル1回転 ハンドル長=60mm 実用巻上持久力=3kg 最大巻上速度195m/分

▶水深の変化と海底の傾斜を表示する探見丸スケール。海底をトレースするように狙うアカムツ釣りで非常に便利



▲SコンパクトボディとライトゲームエクステーションのXシートエクストリームガングリップの組み合わせは手首への負担を軽減、快適なアカムツ釣りをサポートする

【ゼロテンションで待つ】



①オモリをぶら下げた状態



②テンションを抜いてアタリを待つ。道糸を出して送り込むとオマトリするので注意

【エサの付け方考】



エサは富山湾で捕れたホタルイカとサンマの切り身が用意されている。



ツボ抜きしたゲンとサンマのセット(左)がエサ持ちとアピールで安定度高し



当日、富所さんが最もアタったのは1杯をそのまま付ける方法。エサ持ちは悪いもの手返しでカバー

▶当日狙ったポイントは水深100~120メートル。夏場は水深80メートルまで浅くなる



ただ、明らかに違うのが、ライトならではの軽さと快適さと、圧倒的なアタリの多さ。小さな場所移動のたび、投入直後にアタる。驚くことに、そのほとんどがアカムツなのだ。「アタればほとんどアカムツって、ここぐらいですよ。」

富所さんが目を丸くする。中層でサバが掛かったほかは、ゲストは船中でこぐらいですよ。」

ウツカリカサゴ、イズカサゴ、アマダイが1尾ずつ釣れたのみである。「投入してすぐにアタリがきて、掛からないとエサを取られていきます。これ、アカムツですよ。」

フォースマスター200で巻き上げてはテンポよく再投入する富所さん。想像以上にアカムツにエサを取られることも驚きた。「アタリはほとんどベタ底です。ゼロテンションも釣れますが、オモリを離しても釣れます」

▲下げ潮時はとくに表層を川水が速く流れる。細い道糸ほど立ちやすいため、ライトは理にかなっている

難しい誘いも、タナ取りも、仕掛けをアレンジする必要もなくアカムツが釣れてくる。アタリは明確に竿先に出る。そしてアカムツならではの強い引きを堪能した後、海面下に赤い魚体が踊る。これが夜明けから沖揚げの11時まで続くのだから、面白いわけではない。好調の理由を船長に聞けば、ポイント選定のほか、ここ数年は放流の成果もあるのではないかと話す。

その言葉どおり、富山県農林水産総合技術センター水産研究所では平成23年よりアカムツの種苗生産技術の研究に取り組み、日本で初めてアカムツの人工種苗生産技術を確立、平成27年度から令和3年度までの7年間で計18万尾以上の放流に成功している。アカムツ放流が昨今の富山湾の好況

に影響しているか確証はないものの、船長の持つ印象と放流時期の一致は注目すべきだろう。釣り場が近く、浅く、釣果が安定しているポイントが無数にある。そして日本で唯一、放流が行われている。近い将来、富山湾がアカムツ王国になる可能性は高い。

日本で初めてアカムツ放流を 実現した富山湾の可能性



▶茨城でも楽しむ方が富山へと足をのばしている



▲近くて種やかな海地。元の釣り人が気軽に通って釣っている



▲エサの後は180グラムのメタルジグでも連発



▶ほとんどアカムツの中、ビッグなゲストはアマダイだった